1 第215回国会概観

1 第50回衆議院議員総選挙

第214回国会（臨時会）開会中の令和6年（2024年）10月9日、石破内閣の下、衆議院が解散された。

これを受けて、第50回衆議院議員総選挙が10月15日に公示され、10月27日に執行された。

今回の選挙は、令和4年の公職選挙法の一部を改正する法律により、小選挙区の区割りの改定（10増10減）と比例代表選挙区（ブロック）別定数の改正（3増3減）の下で行われた。

総選挙の結果、自由民主党の獲得議席は191議席と、衆議院の単独過半数233議席を大きく下回り、連立与党である公明党も改選前の議席を下回る24議席となった。このため、与党としても過半数を割り込む結果となった。

立憲民主党は、改選前から大幅に議席を増やし、148議席となった。また、国民民主党は改選前の4倍となる28議席、れいわ新選組は改選前の3倍となる9議席を得た。日本維新の会は38議席、日本共産党は8議席を得たものの改選前を下回る等の結果となった。

今回の選挙の全国平均投票率は、小選挙区53.85%、比例代表53.84%であった。これは、前回（令和3年10月）の総選挙を下回り、戦後3番目の低投票率となった。

10月28日、自由民主党及び公明党は、連立政権の継続を確認し、合意文書に署名した。

10月31日、公明党の石井代表は、辞意を表明した。その後、11月9日に斉藤鉄夫衆議院議員が公明党の新代表に選出された。

11月6日、日本維新の会の馬場代表は、代表選挙への不出馬を表明した。その後、12月1日に吉村大阪府知事が日本維新の会の新代表に、12月2日に前原誠司衆議院議員が共同代表にそれぞれ選出された。

2 会期及び活動等の概要

（召集・会期）

第215回国会（特別会）は、10月27日に行われた第50回衆議院議員総選挙を受け、11月11日に召集された。会期は、衆参両院の本会議において、11月14日までの4日間とする旨議決され、11月14日、参議院議場において開会式が行われた。

（院の構成）

参議院では、召集日当日の本会議で、尾辻秀久議長の辞任を許可した後、無名投票による議長選挙の結果、第34代議長に関口昌一君（自民）が当選した。同日、関口議長

は、所属会派を退会した。

また、議席の指定が行われた後、8 常任委員長（内閣、文教科学、農林水産、経済産業、国土交通、環境、行政監視、懲罰）の辞任及び選挙、7 特別委員会（災害対策、ODA 沖縄北方、政治改革、拉致問題、地方デジタル、消費者問題、震災復興）の設置等が行われた。

衆議院では、召集日当日の本会議で、議長及び副議長の選挙が行われ、議長に自由民主党・無所属の会の額賀福志郎君が、副議長には立憲民主党・無所属の玄葉光一郎君が当選した。また、同日、議院運営委員長の選挙等が行われた。

11月13日には、議院運営委員長を除く各常任委員長の選挙が行われたほか、7 特別委員会（震災復興・災害対策、政治改革、沖縄北方、拉致問題、消費者問題、原子力、地域・こども・デジタル）の設置等が行われた。

（内閣総理大臣の指名）

召集日当日、石破内閣が総辞職し、衆参両院の本会議において内閣総理大臣の指名が行われた。衆議院では、最初の記名投票で投票の過半数を得た者がなかったため、石破茂衆議院議員（自由民主党総裁）と野田佳彦衆議院議員（立憲民主党代表）との決選投票を行った結果、石破茂衆議院議員が指名された。参議院では、記名投票の結果、石破茂衆議院議員が指名された。

同日、自由民主党及び公明党の連立による第2次石破内閣が発足した。

（活動等の概要）

今国会中、衆議院議員提出法律案2件が新規に提出され、衆議院で継続審査となった。

内閣総理大臣の所信表明演説は行われなかった。

請願は、会期が短いため、受け付けなかった。

会期末の11月14日、衆参両院の本会議で閉会手続が行われた。